

コラム

部屋ごとに異なる天井のデザイン

旧陸軍第九師団長官舎の各部屋の天井を見るとデザインが部屋ごとに異なることが分かります。旧応接室（現ガイダンス室）の天井は板張りの格天井となっており、旧食堂（元多目的室）の天井は板張りの天井で、照明器具廻りにのみ漆喰が施されています。このように、天井のデザインのアレンジによって、部屋の個別化を図っている点もこの建物の隠れた見どころとなっています。また、廊下の天井にも見事な左官の技が随所に施されています。



旧食堂（現多目的室）の天井

現存していた建築当初の照明

文化財の価値の一つに、外壁や建具、間取りなどが建築当初の姿のまま保存されているということが挙げられます。一方で、照明器具などの設備となると、時代の変化の中で、建築当初の設備が更新されていることが多く、重要文化財であっても建築当初の設備が失われていることがあります。ところが、旧陸軍第九師団長官舎を調査した専門家からは、本建築には当初の照明器具が残っているとの報告がなされており、2016年のリニューアルの際には、照明のグローブなど欠損した部分を補い、再利用しています。この照明も大正の雰囲気をも伝える大切な文化財です。



旧応接室（現ガイダンス室）の照明器具

旧陸軍第九師団長官舎の耐震補強

旧陸軍第九師団長官舎は、2016年のリニューアルの際に、地震に耐えるかどうか診断したところ、現状のままでは倒壊する可能性が高く、耐震補強が必要であることが判明しました。リニューアル工事に合わせ、耐震性を向上させるため、外観や木造の構造を変えないように、柱と柱の間に筋交いや構造用合板を入れたり、小屋組の梁同士をブレースで緊結したり、基礎は鉄筋コンクリート造の基礎に変更するなどの耐震補強工事を実施しました。その結果、木造の建物ながら震度6強の地震にも耐えるだけの耐震性を得ることができました。

全国の旧陸軍施設との共通点

明治期以降、全国に陸軍施設が建築されましたが、本県には、赤レンガが特徴的な旧金澤陸軍兵器支廠兵器庫をはじめとし、旧陸軍第九師団司令部庁舎、旧陸軍金沢偕行社そして旧陸軍第九師団長官舎などの多くの旧陸軍施設がまともに残されています。これらと他県に残された旧陸軍施設を比較すると非常に似た外観や間取りを持つことに気付かされます。当時の兵器庫の建築例によれば、明治末期から大正期頃には建物の建築に際して、陸軍本省から「設計要領書」なるものが送られていることが判明しており、これは、ある程度の建築内容が盛り込まれた標準設計ともいえるべきものであったと思われます。そんな標準設計で作られたとしか思えない建築例をいくつか紹介いたします。



明治31年建築の旧陸軍第九師団司令部庁舎（現国立工芸館）



明治31年建築の旧陸軍第十一師団司令部庁舎（香川県善通寺市）第九師団と同じコの字型の平面で、寄棟造の瓦屋根に上げ下げ窓、左右の窓の下の装飾まで酷似している。



明治42年～大正3年建築の旧金澤陸軍兵器支廠兵器庫（現いしかわ赤レンガミュージアム）



大正2年建築の旧第十師団兵器庫（現姫路市立美術館）（提供：姫路市）煉瓦造2階建の切妻屋根であり、アーチ状の窓や棟飾りが旧金澤陸軍兵器支廠兵器庫と共通している。



大正11年建築の旧陸軍第九師団長官舎（現県立美術館広坂別館）



大正6年建築の旧第八師団長官舎（現スターバックス弘前公園前店）ハーフ・ティンバー様の正面の破風や袴腰屋根などの特徴が旧陸軍第九師団長官舎と共通している。

文化財区分：国登録有形文化財（2016年（平成28年）登録）
年代：1922年（大正11年）建築
1962年（昭和37年）和館部分を撤去
構造形式：木造平屋建 設計者：不明
《建物略年表》
1922年（大正11年）建築
1957年（昭和32年）金沢家庭裁判所として使用
1959年（昭和34年）石川県児童会館として使用
1962年（昭和37年）和館部分を撤去 同会館に付属野鳥園を併設
1976年（昭和51年）付属野鳥園を「広坂公園」と改称
1987年（昭和62年）～1989年（平成元年）大規模改修し、兼六園広坂休憩館として使用
2008年（平成20年）石川県立美術館広坂別館として使用
2016年（平成28年）石川県文化財保存修復工場の移転に合わせ、耐震補強工事を実施し、リニューアル

金沢 レトロ建築めぐり ～近代建築ガイドパンフレット～

〔国登録有形文化財〕 旧陸軍 第九師団長官舎

石川県立美術館広坂別館



旧陸軍第九師団長官舎

[国登録有形文化財]



現在の外観

三角破風に車寄せ、破風と外壁で仕上げを変えなど変化に富んだ正面意匠である。

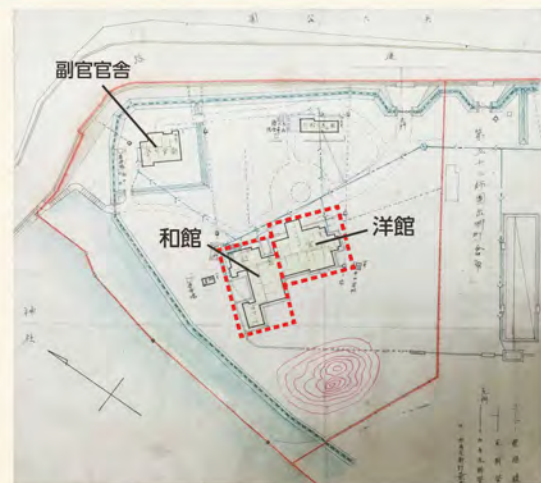
大きな三角破風が特徴的な旧師団長の官舎



1957年頃の外観

当時は金沢家庭裁判所が仮の庁舎として使用していた。

石川県立美術館広坂別館の建物は、1922年(大正11年)に旧陸軍第九師団長の官舎として建築されました。かつては和館を併設し、敷地内に副官官舎、厩舎なども建てられていました。旧陸軍の長官舎は、全国で



建築当初の配置図

図の中央に長官舎が配置されている。図の左上に副官官舎が配置されている。洋館部分が現在広坂別館として活用されており、和館部分は1962年に解体された。

ほかに6棟しか残されておらず、旧陸軍第九師団司令部庁舎や金沢偕行社、兵器庫などとともに、金沢が「軍都」であったことを象徴する貴重な歴史的建造物であります。



裏手から撮影した和館の外観(1957年頃)

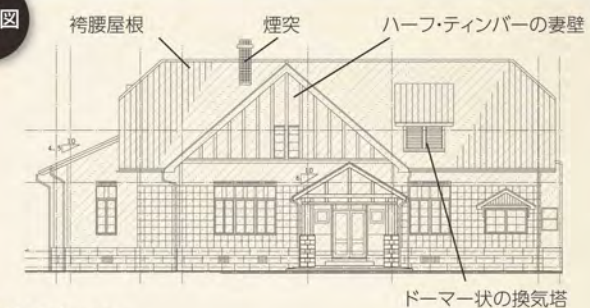
右側に洋館の特徴的な袴腰屋根が見える。

戦後は、米軍将校の官舎や金沢家庭裁判所、石川県児童会館、野鳥園、兼六園広坂休憩館と様々な施設として使われてきましたが、2008年(平成20年)以降は、県立美術館広坂別館としてギャラリーや茶会等、県民の文化活動の場として使用されてきました。2015年(平成27年)に、文化財保存修復工房の移転に伴い耐震補強工事が行われ、2016年(平成28年)にリニューアルオープンしました。



側面のモルタル掻き落としのドイツ壁

正面図



現在の立面図

外観は正面に張り出した大きな切妻屋根(切妻破風)が印象的で、外壁部分には柱や梁の骨格を露出させた北ヨーロッパでよく見られるハーフ・ティンバーの意匠が取り入れられている。急勾配の屋根は、大正期に建てられた旧第二師団長官舎(現宮城県知事公館)や旧第八師団長官舎(現スターバックス弘前公園前店)などと類似した袴腰屋根となっている。屋根にはドーマー状の換気塔を設けるほか、破風(妻壁)に設けられた窓や煉瓦造りの煙突など、切妻屋根(切妻破風)を主とする立面に意匠的变化を与えている。外壁の特徴である破風の部分は、モルタル掻き落としのドイツ壁であり、ハーフ・ティンバーの意匠とともに重厚な仕上げとなっている。



背面の下見板張りの外壁

下見板張りの外壁であり、正面と異なった意匠である。



応接室(現修復工房ガイダンス室)のマンテルピース
建築当初から存在すると思われる見事な装飾がされたマンテルピース(暖炉飾り)が2つの部屋に残る。